



障害者支援を通して人と人の関わりで大切なことを学ぶ“人生の道筋”



(株)ぽーと

えんどう とおる
代表取締役 遠藤 徹 様

平成26年1月創業
業種／児童福祉事業（放課後等デイサービス）
三春教室／田村郡三春町上舞木大谷ツ29-15
他、富久山教室・鳴神教室・田村教室
TEL 024-954-4004

営業時間／月～金
10：00～19：00
土・祝・長期休暇
8：30～17：30

放課後等デイサービスとは

身体の障害または、知的障害や精神障害のある小学生から高校生までが学校の授業終了後や長期休暇中に通うことのできる施設。障害を持つ子どもが、日常生活を送るために必要な訓練により生活能力の向上を図り学校教育と相まって自立を促進することを目的にしている。働き方改革に伴う女性進出や、発達障害などと診断される子どもが増加傾向にある昨今、放課後等の居場所を確保するために平成24年の児童福祉法改正の際に“放課後等デイサービス”が創設された。

開業するきっかけ ～障害を知ること、見え方が変わる「福祉の道が切り拓いた人生」～

現在、三春町を中心に4か所で教室を運営。様々な障害を持つ小学生から高校生40名程度が利用している。子ども一人ひとりに合った支援方法や目標を掲げ、一律のサービスでは引き出せない可能性や能力を伸ばす療育に力を入れている。遠藤さんが障害児支援に並々ならぬ力を注ぐのは、兄弟が障害を背負う人生となり、その苦悩と葛藤に家族として向き合っているからである。障害者に対する“無知や無関心”が偏見や差別という大きな壁になっている。その“心の壁”を取り払うためには、「知る」ことが重要だと語る。遠藤さん自身も見え方や考え方が変わり、福祉事業に関心を抱きその道に進む決意をした。福祉全般の専門的な知識と技術を培うために社会福祉士の資格も取得。介護の現場で経験を積んでいくなかで障害児支援の需要の高まりを感じ始めたという。そのなかでも障害のある子どもが、社会人として自立できるように“医療と教育”のバランスを保ちながら幼少期の療育に努める“放課後等デイサービス”の重要性に共感。一番の理解者である家族の後押しもあり、平成26年1月“放課後等デイサービスひかり 三春教室”を開業した。



■各教室の個別ブース

障害児支援から学ばりがいとは ～十人十色の支援を模索。子供の成長からみる障害児支援の重要性～

身長が伸びた、出来ることが増えたなど、その子の成長を間近で感じられることが一番のやりがいだという。一人ひとり多様な問題を抱えており、一つとして同じ支援方法がない難しさもある。しかし、その子の「できること・できないこと」を知り、良き理解者として関わり続けることが大事であるという。放課後等デイサービスは、一人の子どもと最長12年間じっくり関わり続けることが出来る。子どもと向き合い、その子に合った支援策を見出すことが出来るのだ。手先の作業を苦手とする子どもには、物を掴む訓練から始まり、割りばしを詰める作業など多岐に渡る訓練がある。「できた」喜びを感じさせながら、子どもの自信を養い成長に繋げていく。将来、社会に出ていく子供たちが各々の形で自立した生活を送れるようになるために、子ども一人ひとりに寄り添いながら支援していくことが大切だと語る。遠藤さんは、幼少期という大切な時期に携わる責任と、職員一丸となって子どもを支援し続けることへのやりがいを見出し、障害児福祉事業の道を直向きに突き進んでいる。



■訓練風景



■子どもの作品

今後の障害者支援について ～障害のある方に寄り添う人生を歩み続けたい～

障害を持つ方のライフステージに応じた切れ目のない支援を提供したい。学童期の支援に加え、乳幼児期の支援や障害者就労施設など「それぞれのペースに合わせて“生きる力”を学べる場所を作りたい」と語る。障害がある子どもを持つ両親にとり、親亡き後の将来を心配する声は絶えない。遠藤さん自身も家族として実感しているからこそ、その心配を少しでも払拭していきたい。遠藤さん自身の人生を切り拓いた福祉事業の道で「障害のある子の人生に寄り添った支援をしていく」との確固たる信念が感じられた。

